

脱原発、大きな国民運動に!



全日本自治団体労働組合
北海道本部
〒060-0806 札幌市北区
北6西7北海道自治労会館
電話 011-747-3211
FAX 011-700-2053
編集・発行 谷川 広美

道本部第114回中央委員会

一人はみんなのために みんなは一人のために

道本部は6月2日、3日の両日、自治労会館で第114回中央委員会を開き342人(うち女性42人・28%)が参加した。当面の闘争方針など6つの議案が賛成多数で可決され、「脱原発の実現にむけた決議(案)」や、「国民不在の党内対立と政権運営の混乱への猛省と民主党の再出発を求める特別決議(案)」、「人勸期のたたかいはじめとする闘争宣言(案)」を採択した。

冒頭、東日本大震災で犠牲になった方々に黙祷を捧げたあと中央委員会を開始した。6月2日、この日、国会では、野党が提出した「内閣不信任決議案」をめぐり混乱が起きていた。山上委員長はあいさつで、当面する諸課題を中心にふれた上で、国会の動きに「今日、衆議院本会議で『内閣不信任決議案』が採決される。国民生活を省みない党利党略的な自民・公明両党は許し難い政党で断固糾弾すべきである」と強調した。さらに、同



新しい仲間! 「広域紋別病院労働組合」

亀澤書記長あいさつ(写真右)=移管ありきの議論からはじまり、医者、看護師不足など、多くの困難があったが、ご協力によりやっと結成にこぎつけることができたことに感謝。これからもよろしく願います。
※「北海道病院事業改革プラン」のもと、道立紋別病院が本年3月末で紋別市、滝上町、興部町、西興部村、雄武町が構成する広域紋別病院企業団に移管され、職員も道職員から一部事務組合の企業団職員へと身分移管。これにとまねい、全道庁紋別病院支部は3月下旬に解散大会を行い、新たに広域紋別病院労働組合を結成し自治労加盟となった。賃金・労働条件の改善と合わせて、医療サービスの向上、病院の健全経営を追求していく。

「原発さえなければ...」。そんな真つ当な思いで命をなくす人がいる。4半世紀、道本部は第2、第3のチェルノブイリにしないために反原発運動を強固なものとして取り組んできた。泊原発や幌延核廃棄物処理施設誘致もカンパ・署

名運動、反対集会、デモ行進で市民にもアピール。しかし、その時の熱い思いは、それぞれの根底にあるものの、それを高らかに叫ぶのは少数人数になっていた。フクシマの事故をきっかけに世界は動いた。「原発よ、さようなら!」だ。

国会審議は微妙な情勢

政府は6月3日、国家公務員制度改革関連法案と給与・一時金10%削減を行う特例法案を閣議決定し、国会へ提出した。国公の総人件費削減の協議に際して、公務員連絡会はこの法案を同日に成立せよと求めてきた。しかし、内閣不信任案をめぐって菅首相から一定の時期に辞任することとした発言を受け、国会審議の見通しは不透明な情勢である。その中で、よ

安心して暮らせる社会にする

闘争宣言では、①賃金・労働条件改善をめぐり人勸期を中心とした取り組み。②公務員制度改革、職場の権利と労働条件を確立する取り組み。③組織強化・拡大の取り組み。④平和・人権・環境の経過報告、2011年国民春闘中間総括、当面

委員長あいさつ
厳しい情勢の中、統一自治体選挙闘争をはじめとする取り組みに職場・地域で運動を担っていた皆さんに感謝申し上げる。東日本大震災の

犠牲者、被災された皆さんにお見舞いを申し上げ、復旧・復興支援にご尽力いただいた皆さんに敬意を表する。今後も応援を続けたい。福島第一原発の放射能漏れ事故は想定外ではなく人災。原発は人間や環境に最も危険。脱原発を明確にし、これを教訓に改革・改善の取り組みを進めなければならぬ。脱原発署名活動などもしっかり取り

組む必要がある。国家公務員の人員削減は、人勸制度が残る中で多くの課題を残した。地公に大きく影響しないよう自治労が全力をあげて必要がある。国家公務員制度改革関連法案も提出される。対等の労使関係をつくり上げるために、単組・総支部の強化を着実に進める必要がある。大震災や原発事故への対応を最優先させなければならぬ国会で、内閣不信任決議案を提出した野党は許し難い。また、同調・賛成する与党議員も許されぬ。大きな希望をもって迎えた政権だけに混乱は残念。額に汗して働く者が報われる、「労働を中心とした福祉型社会」の実現にむけてたたかい続けなければならぬ。よりいっそう固く団結して、この政治危機を乗り越えていきたい。

JICHIRO スケジュール

6月	21日(火) 連合北海道2011平和行動in沖繩「北海道代表団」(～25日、沖縄県)
25日(土) 東日本大震災「自治労復興支援活動」第12グループ派遣(～7月4日、岩手県山田町)	
27日(月) 東日本大震災連合救援ボランティア活動派遣(～7/4、岩手県東和BC)	
第12回北海道平和運動フォーラム定期総会(札幌市)	
28日(火) 道本部第20回執行委員会(札幌市)	
29日(水) 自治労共済第109回通常総代会	
7月	2日(土) 臨時・非常勤等職員連絡会議第18回総会兼第27回全道交流集会(札幌市)

道本部ホームページ
自治労北海道 ユーザー名:hokkaido
組合員専用ページは パスワード:jichi2009

復旧・復興にむけ、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」団結し活動する労働組合運動の真価が問われるとき。自治労の支援行動、連合の災害救援ボランティア活動などに総力をあける。さらに、大震災と原発事故後、復興支援にとどまらず、地域社会や産業・企業活動、生活・文化などあらゆる分野で社会のあり方が問われる。自治労道本部に結集する6万組合員の団結を固め、当面する課題に全力をあげ、より大きな社会的連帯をつくりだし、支え合い、安心して暮らせる社会をつくることを宣言した。

急ごう署名! 最終集約6月30日

なくそう原発! 変えようエネルギー政策!
脱原発社会の実現もとめ1人5筆!

本号の紙面

23面 道本部第114回中央委員会
4面 東日本復興支援報告 (第3G～6G) ほか

東日本大震災復興支援報告(第3〜6グループ)

「自治労の底力」の見せどころ

自治労本部は、4月10日から開始した東日本大震災復興支援活動に、第9Gから規模を縮小するものの、7月10日まで延長して派遣することを決定した。岩手県に北海道本部から現在の第10グループ(以下II G)まで延べ132人を派遣している。本号では前回以降の第3Gから第6Gまでの状況変化を報告する。※参加組合員と単組・総支部の協力に感謝申し上げます。

遅れた入学式と始業式 第3G 4月25日、宮古市の各学校で遅れていた「入学式・始業式」が行われた。避難所でもピカピカの一年生が元気に登校し、子どもたちが校庭で遊ぶ当たり前の光景が戻ってきた。時間の合間を見て子どもたちの遊び相手をもした。



遅れていた入学式

避難所でもピカピカの一年生が元気に登校し、子どもたちが校庭で遊ぶ当たり前の光景が戻ってきた。

避難所では、自宅を流された方、浸水した自宅の片付けをする方、自宅居住でも食事などを避難所まで取りに来る方など、さまざま。

仮設住宅の入居スタート

自治労の復興支援活動(北海道)

グループ	派遣期間	人数
第1	4/10~4/18	15人
第2	4/16~4/25	15人
第3	4/23~5/2	15人
第4	4/30~5/9	15人
第5	5/7~5/16	15人
第6	5/14~5/23	15人
第7	5/21~5/30	15人
第8	5/28~6/6	15人
第9	6/4~6/13	6人
第10	6/11~6/20	6人

■お兄ちゃんはあるの？ 第1Gからはじまった小学校3力所の避難所担当が次の第4Gから変更になる。北海道が配置された各小学校の被災者に「本当に助かった。ありがとう」の言葉を頂いた。自分たちができることを精一杯やる。そんな気持ちにさせられる自治労復興支援活動である。(第3G・山木紀彦)

■少しの辛抱しかし！ 第5G前Gに引き続き、グリーンピアと宮古第二中学校の避難所支援にあたった。仮設住宅建築中で転居者は少ない。市内は信号が復旧しはじめ、放置された車や船の姿も徐々になくなった。市役所では義援金の受理などの生活面の支援と

一丸となり地域医療を守る

【渡島地方本部発】市立函館病院は1860年(万延元年)に箱館医学所として設立し、国内では有数の歴史ある道南の基幹病院です。2004年の市町村合併に伴い、恵山病院・南茅部病院との3病院体制(病院局)となりました。



職場だより

3病院は地理的に離れていますが、4月の新人歓迎会、6月の組合レク(旅行、8月のビアパーティ)と交流の輪を広げ、楽しくも強固な組織づくりをめざしています。東日本大震災以降、2度の医療救護班派遣に多くの組合員が参加しまし



函館市立病院



手前が松原書記。右は、松田委員長に折衝後の報告をしている小松書記長。6月8日、函館労組書記局

た。1868年箱館病院院長として就任した、高松俊雲の赤十字活動の魂を引き継ぎ、地域住民の医療を組合員一丸となつて守っていきます。書記局では松原書記が元氣にお出迎えます。

■仮設住宅入居スタート 第6G 避難所運営から2カ月が過ぎ、第1Gから開始したスタッフの活

★お知らせ シリーズ 子ども・子育て新システムはお休みします。

報道で被災状況や避難所のようすなどは、見ていたが、現地で見えた光景のありがたさをつくづくの三陸大津波の教訓か

忙中余話

復興支援活動で、5月21〜30日の日程で、宮古市田老地区の最大級の防潮堤(スーパ一堤防)が1979年に完成していたが、大津波は、これらを遙かに越え

東日本大震災支援カンパ



北海道医療でも活動する協会病院労組の中村委員長(右から2人目)53人が、「自治労を通じて100万円をカンパしたい」と訪れた。6月3日、自治労道本部書記局で、山上委員長(左から2人目)が感謝状を渡した。

えさきさんの国会だより ④

江崎孝

民主党の原点に立ち返る

国会が慌ただしくなってきました。今月中にも総理が代わるかもしれない。劇的な鳩山総理と小沢幹事長の退任、菅総理の誕生がちょうど1年前です。あの時は、党内の変革であり、ある意味で覚醒の感がありました。しかし今回はまったく違います。党分裂の寸前。議員の心が日を追うごとに菅執行部から離れていくのを肌で感じる日々でした。

民主党はもう一度、政権交代を願いたい。民主に投票してくれた有権者の思い、原点に立ち返らなければなりません。それを忘れ、大連立に望めば党の液状化はさらに進みます。

ここにいますと政局が政治と勘違いしそうになります。それを踏みとどめさすのは組合員の皆さんの声です。いかなるときも原点を忘れないためにも、こういう時だからこそご意見をください。

(6月7日東京にて)